

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成26年4月6日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4691000055
法人名	有限会社 童里夢
事業所名	グループホーム どりーむ大山
所在地	鹿児島県指宿市山川大山2951番地 (電話) 0993-35-0280
自己評価作成日	平成26年3月18日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/Top.do?PCD=46
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人自立支援センターかごしま 福祉サービス評価機構
所在地	鹿児島県鹿児島市星ヶ峯四丁目2番6号
訪問調査日	平成26年3月31日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

開所から3年の月日を共に過ごし、利用者同士も職員も家族のように馴染み、穏やかに生活している。利用者のADLの低下や認知度の進行は避けられないが、安心して毎日を笑顔で過ごせるよう、職員は心を砕いている。利用者の介護度は1～4と幅があるが、野菜作りや花植え・保存食(干しだいこん・漬物)作り・散歩やドライブなど、それぞれの機会を楽しんでいる。利用者のご家族とは、『生活状況のお知らせ』を毎月お渡しし面会時には近況をお話する。必要時(祝い事・体調不良など)には密に連絡を取り、何でも相談できる信頼関係を築けている。また、地元の方が気軽に遊びに来たり作物を差し入れて下さるなど、地域との関わりもスムーズに出来ている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- ・当ホームは、医療機関や郵便局・スーパーマーケット等が近くにある県道沿いの住宅地の中にあり、庭から集落や畑・高台の公園も望める等、四季の移り変わりを感じられる環境にある。
- ・地域の一員として、地域行事への参加や避難訓練への住民への協力等、相互に交流ができています。
- ・管理者は利用者の状況や意見を聞く機会を多く作り、地域に密着したサービス向上に積極的に関わっている。
- ・当事業所は、他にも有料老人ホームやグループホーム等があり、合同のイベントや定期的な交流及び職員の協力体制が築かれている。
- ・利用者の居室から直接庭に出て外気浴や散策ができる。毎日が自然とのふれあいの場になっている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	皆の目に入りやすいテレビボードの上に、利用者の手書きの理念を貼り、共有と実践ができるよう努めている。	職員で話し合い作成した理念を、ホールの中央に掲示し、常に目にしながら支援している。ミーティング会議で話し合い、ケアを振り返り実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	グループホームは集落に加入し、地域の行事には出来るだけ参加し、一員として受け入れられるよう努めている。	町内会に加入し、地域の行事に積極的に参加している。散歩や買い物で挨拶をしたり近隣の住民から季節の野菜等の差し入れが多くある。地域の高齢者ふれあい食事会にも参加し、中学生の職場体験学習の受け入れも行っている。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	近所や地域の方々からの様々な相談には、親身に対応し協力を努めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月毎に開催し、状況報告を行っている。参加者（民生委員・家族代表）より、地域の情報や活動の提案を頂き、支援に活かしている。	会議は定期的に行われ、ホームの入居者状況や行事・活動報告・ヒヤリハット報告、外部評価結果報告等を行い、参加者と意見交換をしている。出された意見等をサービス向上に活かすよう取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	運営推進会議や実地指導の機会を使って、いろいろな情報やアドバイスを頂いている。	市担当者とは電話や窓口に出向き、相談や報告をして、情報提供やアドバイスを受ける等、協力関係を築いている。市の研修にも積極的に参加し情報交換している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体の動きを抑制するような拘束の実施は無い。利用者と思いの疎通を図りながら、安全な介護を援助している。玄関の施錠は、夜間の防犯目的のみである。	勉強会や事例検討会で、身体拘束廃止について話し合っている。日常のケアで、言葉使いについてスピーチロックをしないよう配慮している。昼間の玄関の施錠はせずに、自由な暮らしを支援している。利用者が外出希望の時は、声かけしたり付き添って一緒に散歩をする等、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	打撲や皮内出血等は、発見者が記録に残し、皆で原因究明や再発防止の検討をしている。BPSD等については、職員間で対応を協議し、介護の統一を図っている。管理者は、職員に研修会への参加を、積極的に促している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	市町村の担当者や関係機関と連携を取り、相談したりアドバイスを頂いたりしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	入所時に、重要事項説明書を基に、契約の締結や解除についての説明を行い、理解・納得を求めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	面会や料金支払いの時にスタッフや管理者が意識して声かけし、状況報告だけでなく、要望や意見を伺い、その都度対応している。	利用者とは日常的な関わりの中で思いを聞いている。家族の意見は面会や行事参加・運営推進会議等を通し、管理者及び職員から声かけし、状況報告を行ったり要望を聞いて、出された意見等は職員で話し合い、速やかに対応している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>月1回のミーティングを開催し、運営に関する意見も聞いて、運営に反映させるよう努めている。</p>	<p>毎月のミーティング及び昼休みの話し合いで、職員の意見を聞く機会を設けている。日常業務で気づいた事など職員で意見を出し合いケアに活かしている。管理者は日頃から話しやすい雰囲気作りに努め、個別相談も日常的に受けている。積極的に職員と関わることが多く働きやすい職場づくりに努めている。</p>	
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。</p>	<p>休みの希望や給与などに際しては、調整に努め、職員個々とのコミュニケーションを基に環境や条件の調整に努めている。</p>		
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>研修の内容に合わせ、代表や管理者が職員の希望も聞きつつ外部研修・法人内他事業所研修を受ける機会を確保している。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>グループホーム協議会などの会合参加で他の施設の同業者交流に努めている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の意見や要望を良く聞き、笑顔で穏やかに対応することで安心できるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所申し込みの時から、家族の相談に親身になって対応し、入所時にはさらに詳しく要望に耳を傾け対応することで信頼関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所開始時の担当者会議において、必要とする支援を見極め、必要時は主治医や居宅のケアマネとの連絡や情報交換を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員はホームを「もう一つの家」と考え利用者を「共に支え合って生活する者同士」として関係を築いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の面会では、家族だけの空間や時間を支援したり間に入って一緒にコミュニケーションを図り共に支え合う関係であるよう努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	散歩時、近所の方への声かけや、病院受診時に知人と会った時など話題提供や間を取り持ったり、本人希望時に知人宅を訪問するなど関係維持が出来るよう努めている。	知人や友人宅への訪問・買い物・美容室等、利用者の希望や生活習慣を大切にしている。かかりつけ医や看護師に会う楽しみや家族の協力で墓参りをする等、これまでに築いた関係を継続できるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係や個性を把握し、座席の位置を調整したり、会話を取り持つなどの支援を行っている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ホーム外で、家族に出会った時などは積極的に声をかけ、その語の経過や不安はないかなどのフォローをしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	声かけだけでなく、会話をする時間を心掛けて作り、思いを聞けるように努めている。	利用者の日々の行動や表情から思いを汲み取り把握している。職員は、毎日10分間の会話を利用者と向き合い思いを聞いている。意思疎通が困難な場合は、家族からの情報や声かけを頻回に行い、表情等から汲み取るようにして本人中心の支援を心がけている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日常生活での世間話も、大切な情報収集の機会と捉えている。情報は記録し職員で共有、その方の理解に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人ひとりの変化や必要に応じて職員間で検討し、朝夕の申し送りやミーティングなどで、情報の共有に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>本人の希望はもとより、家族や主治医とも意見交換し、現状に即した介護計画を作成できるよう努めている。</p>	<p>日頃の会話等から把握した本人や家族の思いや希望を聞き、主治医の意見を基に、職員で話し合い介護計画を作成している。毎月の支援経過記録から3ヶ月に1回モニタリングを実施し、6ヶ月毎に見直しをしている。状態変化等、必要時には職員全員でケアを振り返りカンファレンスをして、常に現状に即した介護計画ができるようにしている。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>毎日の様子や変化は、個別記録に残すと共に、申し送りやミーティング等にて、職員間で共有している。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>病院受診時の送迎や付き添い、近所の自宅や友人・兄弟宅への訪問や、墓参りに付き添うなど個別支援に努めている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	職員の付添いで、地域の行事（六月灯の灯ろう作り・歳の市など）へ参加されるなど、安全で豊かな暮らしを楽しんで頂くよう努めている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医との関係を大切にし、必要と希望に応じて、受診の支援を行っている。	かかりつけ医は本人及び家族の希望で決めている。月に1回は訪問診療を受けている。受診支援は看護師が同行し医療との連携を取っている。医療連携体制で健康管理を実施し、適切な医療が受けられるよう支援している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日々の困りごとについて情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	著しいBPSDが見られ、医療との連携を必要とする場合や、日常の体調管理や内服管理などを、職場内の看護資格を持った職員と連携しながら支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には情報提供書を提供し、入院中は面会に行き様子を聞く。退院時には主治医の指示やサマリーを頂くことで、連携を図っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>入所時に、重度化した場合の家族の意向を確認する。身体機能の低下に合わせて、家族との話し合いを重ねている。</p>	<p>契約時にホームの方針を説明し、重度化等の場合、かかりつけ医から説明した後、ホームの方針の説明と家族等の意向確認の話し合いを重ねながら、支援に取り組んでいる。利用者の状態に応じ事業所でできる最大のケアを説明した上で家族の希望に沿った支援をしている。職員は方針を共有し、勉強会を実施している。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>定期的ではないが、緊急連絡網の確認や、救急対応の訓練を行っている。</p>		
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>昼間・夜間想定避難訓練、地域住民参加の避難訓練を行っている。自主防災組織を立ち上げて協力頂いている。</p>	<p>消防署の指導のもと年2回の避難訓練を昼夜間想定で実施している。自主防災組織の立ち上げで地域住民の協力体制も築いている。スプリンクラーが設置されて、災害発生時の食料の備蓄もある。今後は的確に安全な避難方法や場の確保を検討課題としている。住民へ避難時の利用者見守りの協力も依頼している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人ひとりに合った丁寧な言葉づかい、人格を尊重しプライバシーを損ねない言動に努めている。	利用者の生活歴により、同じ言葉でも傷つけることがあるので個別性を大事にしたケアをしている。スピーチロックには特に注意を払っている。トイレ誘導時はさり気ない声かけをしている。また、個人情報は事務室で適切に保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	声かけに於いても、指示的な言葉を使わずに疑問形で問いかけ、本人が決定したり、意思の表出ができるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床から就寝まで、一人ひとりのペースを尊重し、入浴や外出の希望にも、出来るだけ対応できるように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	定期的な散髪や爪切りなどの支援と、その都度の整髪・着衣等身だしなみの声かけや支援を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の食材や家庭菜園の野菜などを活用し、下ごしらえ・調理・片づけなどを一緒に行い、食事を楽しんで頂けるよう努めている。	献立は関連施設で作成したものを基本に栄養面にも配慮している。地域や家族からの食材の差し入れも多く、旬の野菜を取り入れている。利用者の食事形態を配慮したり、行事食・誕生日等の食事を楽しむ支援をしている。利用者の力量を活かして、準備や片付け・ケーキ作り・保存食作り等を職員と一緒にしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量は記録に残している。水分摂取量の少ない方には、果物や好みの飲み物を提供して、摂取を支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後その方の力に応じて、うがいや義歯洗浄を声掛けしたり、一部介助・全介助の支援を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	その方の、必要に応じて声掛けやトイレ誘導に努めている。	一人ひとりの排泄パターンやしぐさを見て声かけやトイレ誘導を行い、トイレでの排泄を支援している。昼間はトイレでの排泄を誘導している。利用者の状況によって尿取りパットを外し布パンツへと自立を促す支援をしている。ウォシュレットを活用して保清に努めており、昼間のオムツ使用を減らすように努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェックを行うと共に、食事・水分・運動への配慮と、医師の指示のもと、下剤等の管理を行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	声かけやタイミングを工夫したり、入浴拒否が続くときは、足浴や陰部洗浄の支援に変えるなどして、不快感が生じないように又、気分転換が出来るように努めている。	入浴は週2回を基本にしているが、その日の希望を聞きいつでも入浴できる準備ができています。入浴を嫌がる利用者には、時間を置いて声かけしたり気分転換の工夫や順番を変えたり、自分で決めて入浴できる支援をしている。足浴等も実施している。必要に応じて2人介助や同性介助も実施している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自室にての休息はいつでも対応し、フロアのソファーや畳でも自由にくつろいで頂いている。夜間の不眠時には一緒に話をするなどし、安心して頂けるよう努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりを使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服説明書を個人記録と一緒にまとめ、看護資格を持った職員を中心に薬の管理を行い、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物たたみや野菜の下ごしらえ、花壇や菜園作りへの参加などで、役割や張り合いのある日々を、個々の誕生会やドライブ・花見などで、楽しみや気分転換の支援に努めている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	散歩が困難な方も、庭の散策や外気浴の支援を行っている。また、ドライブを兼ねて、イベント時や体重測定などに、自施設（他事業所）に出かけている。	日常的に天候の良い時は、散歩や庭での外気浴をしている。法人内の施設にドライブを兼ねて出かけたり、年間計画を立てて外出を実施し、そうめん流し等は家族も参加している。利用者の希望や楽しみに沿って買い物や花見・ドライブ・墓参り等、積極的に戸外支援を行っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>現在1名の方が、こづかい程度のお金を所持しておられる。必要時には、買い物に同行し支援している。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>希望があれば、電話を取り次いだり、伝言をするなどの支援を行っている。手紙や年賀状も、なるべく直筆で書いて頂いている。</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>利用者と作った設営物や草花を飾って、季節感を取り入れている。気温や湿度は責任者を決めてチェックし、加湿器やエアコンを調整している。</p>	<p>フロアは天井が高く明るくて広々としている。加湿器があり、環境が適度に保たれている。季節の花や利用者の手作り作品・写真等が飾ってある。椅子やソファがあり、畳で過ごせるようになっている。対面キッチンで利用者との距離が接しており、一緒に調理等ができるカウンターがある。廊下や庭から公園や畑等が眺められ、季節を感じる事ができる。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>フロアには椅子の他にも、ソファや畳の間など、独りでも気の合った同志とでも、くつろげる空間が設けられている。</p>		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>位牌や洋服掛けを置いたり、タンスやベッドの配置についても、希望に合わせて配慮している。</p>	<p>居室は介護ベッドやタンス・エアコンが備えてある。位牌や毛布等を持ち込み、ベッド等の位置を変えたり、家族写真等を飾って落ち着いて過ごせるように工夫している。馴染みの物や思い出の品物が持ち込まれ、その人らしく過ごせる部屋になっている。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>トイレや居室に名前や目印を付けることで、迷って不安になったり他者に迷惑をかけないように、本人と一緒に工夫している。</p>		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
			3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない